最近の日本人の海外発表で感じること

有　本　　昭
（ペンタックス）

この1年，3つほどの光の国際学会に参加・聴講する機会を得た．あまりえらいことを言う立場ではないが，日本人の海外発表にいくつかの問題点を感じた．

（1）先人の成果を尊重しない

先人の成果を全く参照しないか，無視しているケースがみられる．これは他人の成果を意識的に無視しているか，勉強不足で知らないケースと思われる．筆者は検察官でないので質疑応答で詰問することは避けたが，さすがに気になったので，セッション終了後発表者の一人にその事情を失礼のないように聞いてみた．後者のケースとの意見が返ってきた．

本例では一番優れているかのような発表をしているが，30年以上前の成果に比べてあきらかに劣っていては救いようもない．未熟なテーマ設定や未参照の点は反省すべきである．

前者の，成果（特許を含む）を無視しているケースも，国内外発表に限らず，いくつかの例がある．

（2）語学力の問題および練習不足が多い

われわれのように第2次大戦後まもなく義務教育を受け，満足な英会話教育を受けていない世代と違って，80年代後半から90年ごろには若い人の英語力が非常に改善されてきたと感じていたが，最近はアクセントも含め後退しているのではないだろうか．文法的にも問題だし，質疑応答もまともに答えられず，日本人同士の質疑では日本語で行い，ケースによっては通訳を同行させたりする例もみられる．

学生さんが自由に旅行できる時代になったとしても，指導する先生は，十分な準備と練習をさせて発表の場に臨むようにさせていただきたい．暗記は必ずしも大事でなく，筆者自身は若い発表者に，nativeに英文チェックをしてもらった原稿を十分練習させて読ませるように指導している．

要は，初心者なのだから上手でなくてもよいが，努力した結果がにじむようになっていただきたい．練習不足はすぐばれるものです．

（3）指導者・上司の責任

上記2つの問題は，一見発表当事者の問題とみられるが，指導者（上司，指導教官）の問題も大きいのではないかと感じる．もっと事前に調査してテーマを選定すべきだし，発表に関しても，発表に要する費用は比較的安い時代になったとしても，十分な準備をさせていただきたいと思う．

昨年のLEOSの学生Award 20人のなかで，日本人が1人というのは寂しく感じる．LEOSはopto-electronics研究者にとって登龍門とのうわさも聞く．詳しい受賞者リストを調べてはいないが，壇上に並んだ受賞者のうち，欧米系は約10名，アジア系は7，8名であったと思う．中身が評価されないのと同時に，自分の意思を相手に伝えられないことが問題なのではないだろうか．

（4）時間的損失ならびに金額的損失

時間的な損失に関していえば，先人のやった努力をまたやりなおしているのだから，大幅な損失が生じていることは疑いもない．

金額的な損失に関して，これが企業からの発表だとどの程度の損害を与えているか，よく考える必要がある．例えば国際学会の発表には，4〜5名程度の連名で2年程度の時間を想定すると，1人当たり人件費や実験費を含めて1,000〜2,000万円の費用がかかり，総額1億円程度の損害を所属会社に与えていることになる．国，大学の研究機関でも同じで，それだけ国からの補助金や税金を無駄遣いしていることになる．

以上，ここでのいくつかの例は，いわゆる世間相場での一流（超一流も含む）の企業，大学で起きていることである．

（2006年2月1日受稿）